

玉野みなと国際芸術祭事業化を活用 したみなとまちづくり方策検討



平成16年5月28日(金)
岡山県玉野市

玉野市の概要

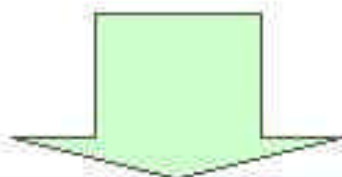
■ 歴史

- 四国への連絡口 — 宇高連絡線の発着地
- 造船の街 — 三井造船の企業城下町



宇野港の現状

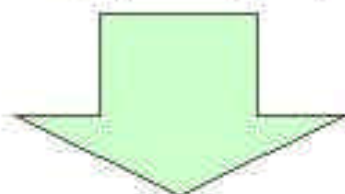
- 瀬戸大橋開通による役割の変化
- 産業構造の変化による地域活力の低下



- ◆ 港湾施設の再開発
- ◆ 宇野港周辺地域再生プランの策定
- ◆ 宇野港を中心とした地域の再生

調査の目的

- 地域の課題
 - 宇野港の拠点性向上
 - 継続的なにぎわいづくり
 - まちづくりへの市民参加の促進



- ◆ 芸術を切り口とした情報発信
- ◆ 市民主体の継続的イベントの可能性



基本的な考え方

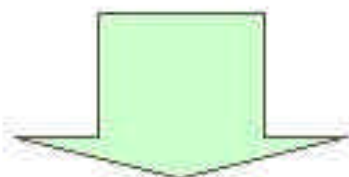
- 市民主体の継続した取り組み
- 幅広い市民の参加
- 「芸術」を切り口に地域の文化を発信

実施内容

- 環境芸術・彫刻家 八木マリヨ氏の「縄アート」
- 着古したTシャツを利用し巨大縄柱モニュメントの制作
- 期間：平成15年8月～平成16年2月
 - 8月～11月：組織作り、実施内容検討
 - 12月～2月：PR、縄の制作、ファイナルイベント実施
- 述べ参加人数：約5,000人
- 集めたTシャツ：約13,000枚

推進体制構築までの経過

- 各種団体に声をかけて参加呼びかけ
- アドバイザーからの提案をたたき台に議論
- 白熱した議論 → 一時は空中分解の危機



- NPOスマイルネット玉情協
が立つ！



NPOスマイルネット玉情協

- 市内在住の60歳前後のメンバーが中心
- 三井造船や地元企業の在職者やOB
- 情報処理産業協会およびパソコン教室のつながり
- ITを使った地域振興を目的にH15.9設立

玉野みなと芸術フェスタへ

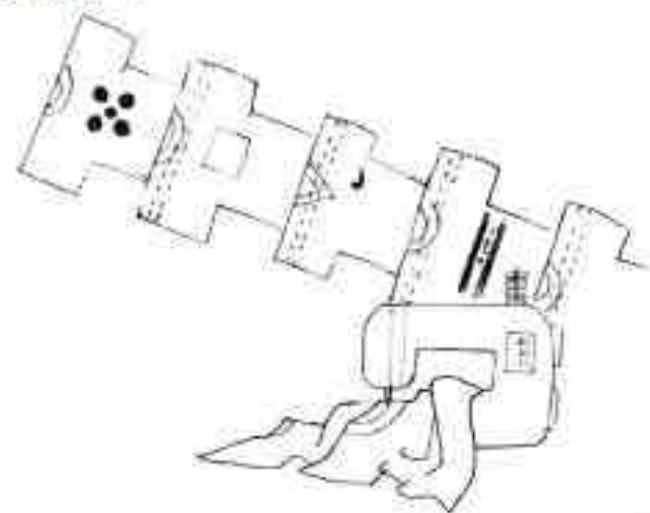
- 固有の文化が少ない玉野
→ 現代アートも面白いのでは
- 人づくりをテーマに
→ 内容は過去に実績(しかし困難)
- 文字通り市民の力の結集
→ 縄アート=巨大モニュメントの制作
- 「玉野みなと芸術フェスタ」の実施

実施経過

■ 課題

- 10,000枚ものTシャツは集まるか？
- 市民の協力は得られるのか？
- ミシン縫いや縄づくりの場所は？
- ファイナルイベントの内容は？

▶ 残された期間は約2ヶ月



実施経過

- NPOの活躍
 - 地域で培った人脈をフル活用
 - ー 協力の輪の拡大
 - 企業で養った能力を発揮
 - ー 綿密な工程管理



- ◆ 持ち前のフットワークでパワフルに推進
- ◆ おじさんパワーの再確認

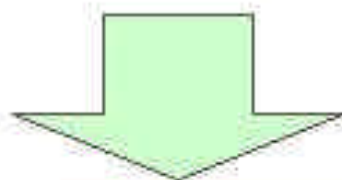
実施経過

- ファイナルイベント
 - 縄柱を燃やすかどうかで激論
 - 議論の中からファイアーセレモニーを決定
 - 環境に配慮するため、綿100%のTシャツに限定
- ◆ 厳寒の中、Tシャツに込めた願いは天に



得られた成果

- まちづくりに新たな軸の誕生
- 市民との協働の体験
- 宇野港＝芸術の情報発信
- 関係者に連帯感



- ◆ 最初の激論があっただけこそ成功
- ◆ スマートではなかったが人の心を動かした

今後の課題

- 継続した取り組みへ — 組織の維持
- 市民参加の拡大
- 地域の芸術関係者との連携
- 目に見える芸術港へ



岡山県玉野市

今後の玉野市の港湾振興施策



- 芸術フェスタの本格実施
- みなとオアシスの設置
- 瀬戸内海各地との観光ネットワークの構築
- 市内観光地の連携強化
- 大型旅客船バースの活用

